

地中海研究所活動報告

□ シンポジウム □

シンポジウム 「地中海地域の碑文文化 ―碑文はどこまで歴史を語るか?―」

2008年12月6日(土) 13:00~18:00 (33-2号館 第1会議室)

主催: 早稲田大学文学学術院

共催: 早稲田大学地中海研究所/早稲田大学ヨーロッパ文明史研究所

早稲田大学西洋史研究会

コーディネーター: 小林雅夫(早稲田大学) 司会: 松原俊文(早稲田大学)

前野弘志(広島大学) 「公的碑文?私的碑文?―クライアントの視点からみたアッティカの決議碑文―」

田中咲子(名古屋ポストン美術館) 「ギリシアの墓碑浮彫りと墓碑銘」

藤澤明寛(早稲田大学) 「破廉恥 infamia について」

梶田知志(早稲田大学) 「Homo Pugnans ―墓碑銘に見る剣闘士(gladiaator)の生と死」

竹山博英(立命館大学) 「イタリアの近・現代の墓碑」

□ イタリア言語・文化研究会例会 □

連絡先: 早稲田大学語学教育研究所内 イタリア言語・文化研究会

E-mail: wasedaitalia@hotmail.com

第98回例会 2007年12月22日(土) 15:00-17:00 (34号館第3会議室)

古田耕史 「Leopardi dionisiaco? ―陶酔と熱狂のあいだ」

金沢文緒 「英国風景画家リチャード・ウィルソンのイタリア滞在―《アポロと四季》をめぐって」

第99回例会 2008年3月8日(土) 15:00-17:00 (33-2号館第2会議室)

森田学 「歌唱イタリア語の発音をめぐって―美しいイタリア語の発音に向けて―」

小倉康之 「ロマネスク様式の起源―ロンバルディアとカタルーニャの教会建築について」

第100回例会 2008年5月17日(土) 15:00-17:00 (39号館第5会議室)

小林明子 「セバスティアーノ・デル・ピオンボの絵画技法―石版画を中心に」

Alessandro Giovanni Gerevini 「Editoria italiana e letteratura giapponese」

第101回例会 2008年7月19日(土) 15:00-17:00 (31号館102教室)

酒井薫 「15世紀後半ジェノヴァとオスマン朝の外交」

花本知子 「非人称の tu をどう教えるか」

第 102 回例会 2008 年 10 月 11 日 (土) 15:00-17:00 (39 号館第 4 会議室)

中村勝巳「プレツォリーニとゴベッティ —《文化の組織者》の系譜—」

Stefano Carletti 「<Il muro della Terra> di Giorgio Caproni」

第 103 回例会日時 2008 年 12 月 13 日 (土) 15:00-17:00 (39 号館第 7 会議室)

神谷久美子「ルネサンス都市国家における蒐集—その意義および受容に関する一試論」

高津美和「16 世紀ルッカにおける宗教改革思想の流入」

第 104 回例会 2009 年 1 月 24 日 (土) 15:00-17:00 (33-2 号館第 1 会議室)

マルコ・マッツィ「イタロ・カルヴィーノ『見えない都市』論」

土肥秀行「初期ウンガレッティとハイク」

□ 地中海研究所研究員 □

研究員 小林雅夫 (所長)

丸野 稔

森原 隆

酒井紀幸

宮城徳也

益田朋幸

客員研究員 篠塚千恵子 (東北芸術工科大学教授)

根占献一(学習院女子大学教授)

松原俊文 (早稲田大学非常勤講師)

ジョージ・ムスラキス (オークランド大学 Senior Lecturer)

(編集後記)

『地中海研究所』の本年度の活動は、事情もあって必ずしも活発だったとは言えずやや不満の残る年でありました。それでも資金不足にもかかわらず、例年通り『紀要』を発行できることは喜びであり、研究所の関係者に感謝します。なお 12 月に開催した碑文をテーマにした『シンポジウム：地中海地域の碑文文化 —碑文はどこまで歴史を語るか?—』(共催：ヨーロッパ文明史研究所)は、やや一般的でないテーマにもかかわらず、参加者も多く充実したシンポジウムであったと思います。当日の報告者および会場準備を担当してくれた方々にも深く感謝します。また今回の『紀要』の発行を担当してくれたのは福山佑子さんです。

小林雅夫

地中海研究所ホームページ： http://www.waseda.jp/prj-med_inst/index.html